

平成25年度第1回木の文化を具体化する推進会議 摘録

◆ 日時：平成25年10月31日（木） 10:00～12:00

◆ 場所：京都ガーデンパレス 「桜」

◆ 出席者：以下参照

区 分	名 前（敬称略）	所 属	
委 員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務	欠席
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長	
	吉田 英治	京都市森林組合代表理事組合長	
	岩井 吉彌	元 京都大学大学院農学研究科 教授	
	北川 義晴	京北森林組合代表理事組合長	
	久山 多代子	森林インストラクター	
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表	
	中野 三郎	公益財団法人京都市森林文化協会理事長	
	橋本 直子	(株) HIBANA 代表取締役	
	吉川 哲雄	京の山杉人工房 モデル工房「木輪舎」 代表	
	内海 真弓	市民公募委員	
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室	
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課	
	安藤係長	京都市農林振興室林業振興課	
	三井担当	京都市農林振興室林業振興課	
	岸本担当	京都市農林振興室林業振興課	

◆ 当日資料：以下参照

資料 No.	資料名
	次第
	配席図
	出席者名簿
資料 1	木の文化を具体化する推進会議開催要綱
資料 2	木の文化を具体化する取組の進ちよく状況について
資料 3	本市の森林の現状と課題について
参考資料－ 1	地域産材ストック情報システム
参考資料－ 2	京都市公共建築物等における木材利用基本方針
参考資料－ 3	京都三山の危機（京都伝統文化の森推進協議会パンフレット）

1 挨拶，委員長・副委員長選出 乾委員欠席

- 挨拶，委員・事務局メンバーの紹介，要綱や今年度の会議実施予定の確認
- 委員長として岩井委員を，副委員長として青合委員を選出

2 木の文化を具体化する取組の進ちよく状況について

- 事務局から資料 1，参考資料－ 1， 2 に基づいて説明
 - ・木の文化を具体化する推進会議の設置目的やこれまでの取組について
 - ・地域産材ストック情報システムについて
 - ・京都市公共建築物等における木材利用基本方針の策定について
 - ・平成 2 4 年度の「みやこ柚木」の需要拡大に関する取組について
 - ・平成 2 5 年度の「みやこ柚木」の需要拡大に関する取組について
- 主な質疑応答及び意見
 - ・みやこ柚木の流通量や市内の素材生産量はどれくらいか？また，みやこ柚木の制度ができたのはいつ頃で，その注文件数はどれくらいか？
 - みやこ柚木の流通量は，原木換算値で 3,528m³，出荷実績 1,789m³（うち，認証された量は 330m³）で，市内の素材生産量は約 35,000m³ である。また制度ができたのは平成 1 9 年である。注文件数については，リフォーム等に補助する事業については年間約 2 0 件で推移し，公共建築物については，年約 5 0 m³ で推移している。
 - ・ストックシステムについて，アクセス数の把握は？
 - アクセス件数については，把握していないが，確実にみやこ柚木に興味を持っている方は増えており，みやこ柚木を入手したいがどこで手に入るのかという相談に対し，HP を紹介させてもらっている。

- ・ペレット燃料の値段は、現在の灯油価格とどれくらい差があるのか？価格差をはっきりと明示できるのであれば、明示した方が、ペレット普及につながるのではないか？

→ペレットと灯油では、熱量で比較すると価格は同じくらいである。ただペレットは灰の処理などがあり、維持管理にコストがかかるので、ペレットの値段がもう少し安くなないと普及は難しいと考えている。

2 本市の森林の現状と課題について

➤ 事務局から資料3，参考資料－3に基づいて説明

➤ 主な質疑応答及び意見

- ・京都市の森林の経済評価を金額に換算するとどれくらいか？また、それに対し、京都市の林業予算はいくらくらいなのか？京都には、平安時代から林業が栄えてきたのに、北山の資料館が閉鎖されるなどして、林業を学ぼうとしても、森林文化を伝える発信基地がないように感じている。北山以外にも、雲ヶ畑や花背にも林業を守っている人がいるが、そういう人たちがなかなか表に出てこないと思う。

→経済価値についてはha当たり約200万円台という数字を国が試算しており、京都市の面積をかけると、市の林業関係の予算5億円より非常に高い額となる。北山スギについては、北山スギの里総合センターを整備した。山村都市交流の森も山を見てもらうという意味で資料館の要素を持っている。

- ・今日は山側の議論という事であるが、林業振興しようとするれば、需要拡大が大事である。
- ・山の果たしている効果が、市民に理解されていない。PRすべきである。
- ・市民に理解されない限り、予算もついてこない。今回の嵐山の水害についても、山の整備の議論につながっていない。どこのメディアも堤防を高くすればすんだとか、日吉ダムの調査が悪かったとかそっちの方の議論に行ってしまった。山の大切さについて、一般市民に啓蒙できるような場所が欲しい。
- ・組合の作業班には、地元の者が少ない。間伐も大事だが、皆伐して植林することの方が大事。60年たったら皆伐して、植林する循環をさせることが大事。
- ・今の日本の林業では、金銭的にそんな体力がない。皆伐すると植林せずに、得た利益をみな持ち逃げしてしまうだろう。皆伐して得た利益は全て吐き出さないと、次に再生していかない。
- ・財源の確保が大事。そのためには、市民に山の大切さを訴えることが大事である。京都市には三山があり、そういう文化的な切り口から予算立てするのも方法である。全国的には多くの都道府県で森林環境税が導入されている。里山をきちっと整備していくことで、関心を高める効果がある。兵庫県では、住民に身近な六甲山を整備しているが、「見える化」が大事だと思う。戦後植えた森林の整備は大事であり、間伐は必要。国は、出材する間伐に補助の重点を置いているが、切捨ての間伐にも補助が必要。山は急峻なので、林道や作業道の開設には限界がある。もう一度架線集材を検討することも大事なのではない

か？

- ・先日の台風の嵐山を見てみても、川と山が一体という思いがある。今回の災害はかなりショッキングだったが、山をアピールするタイミングだと思う。橋の欄干に北山スギや間伐材を使用するようにこれまでも言い続けてきたが、なかなか進まない。鴨川の橋の欄干を間伐材にするとか、橋の下に山の大切さなどを啓発するギャラリーを設置することも大事だと思う。
 - ・文化とかアートは、市民の方も関心が高いと思うので、歴史とか文化とか新しい視点で普及啓発していけばいいのでは？課題は山ほどあるが、その解決のために、頑張っている人や団体もあると思うので、そういう人たちに光が当たるように、会議が進んでいったらいいと思う。都市部に北山スギ資料館のような施設があることも大事である。
 - ・花脊に住んでいるが、これまで山の大切について訴えてきた。桂川の原点が花脊である。これまでも市の会議で災害を止めるためには、山を整備しないとイケないと言ってきた。嵐山の水害が起きた今、林業は災害を止める大きな拠点だということを市民に知ってもらうチャンスだと思う。
 - ・見える化については、二条城の前の歩道の柵は間伐材を用いているが、市民は知らない。間伐材を使用する効用も含めて、もっと市民に知らしめることが大事だと思う。
 - ・国宝を取り扱ったテレビ番組を作成しているが、国宝というものは市民も親しみやすい。京都はたくさん国宝があるので、国宝という切り口で山に持っていく事も大事だと思う。文化財行政と絡めていくことも方法だと思う。文化財の修繕に使う木を育てる山を京都市が指定して、この木が京都市の文化財を補修するのに使われるということを実践するのも一つ方法だ。
 - ・京都の伝統行事である花脊の松あげをレポートしてみた。松あげも山や木と密接につながっている。観光行事や文化財という面からも、山を盛り上げてほしい。
 - ・木をアピールすることは大事。子供に木に関して、どういう教育をしているのかを教えてください。
- いろいろ励ましのご意見をいただいた。確かに山をアピールするチャンスである。京都市の施策については、次回にご紹介したいと思う。文化面でも、木の文化ということも生かしていければと考えている。教育関係については、出前トークという制度などもあり学校に出向いて話をする機会を設けている。また、学校の机や椅子などの整備に合わせて、山の整備の大切さを話したりしている。
- ・子供に、自分で使ったヒノキの机の天板を磨いてもらうという取組をしているが、継続が大事である。
 - ・国有林と学校で、遊々の森の契約を結んで衣笠の国有林で環境教育に取り組んでいる。
 - ・花脊山の家で炭焼き体験なども実施している。花脊山の家は、教育委員会の主導で、全市の5年生の長期宿泊を受け入れており、そのうちの1泊は花脊交流の森に一泊して、地元の山に携わった人と交流する場を設けたりしている。

- ・木材の需要拡大が必要。会議は年 2 回だが、もっといろいろやっつけていかなくてはならない。
- ・北海道の下川町は、保育所から高校まで各学年が、1 年に 1 回森林・林業体験をしている。下川町の子供たちの山に対する意識は高いと聞いた。地元にある産業を子供たちが知るということは、大切である。
- ・そろそろまとめに入りたい。今日の意見を集約すると、森の価値を市民にもっとアピールすることが大事で、それから事が始まるということだったと思う。そのことが、今日市が示した課題に直結することであり、これからも継続して議論していかなくてはならない。そこで提案であるが、次回は京都市として今日出た意見をまとめて、行政としてできることを整理して委員に提案して欲しい。それを材料として次回の議論にしていきたい。

(事務局)

次回は、1 月～2 月に開催したい。改めて事務局から日程調整させてもらう。来年の 1 月 18 日に京都市と京都伝統文化の森推進協議会が主催の公開シンポジウム「東山の森の歴史を学ぶ」を開催する。本会議も関わっていこうと考えているので皆様もご都合がつけば是非参加していただければと考えている。以上で本日の会議は終了とさせていただきます。